

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

(備考)

経済学部（経済学科・経営学科）及び経済情報学部は、令和２年４月開設のため、１～３年のみ在籍。

スポーツ科学部及び栄養学部は令和３年４月開設のため、１～２年のみ在籍。

栄養学科は、１～２年次開講授業科目のみでは基準単位数に満たないため、設置計画に基づき授業科目を追加。

教育学部は令和４年４月開設のため、１年のみ在籍。

経営情報学部は令和 2 年 4 月から学生募集停止のため、4 年のみ在籍。
 4 年次開講授業科目のみでは、基準単位数に満たないため、従前の教育課程に基づき記載を追加。
 人間健康学部は令和 3 年 4 月から学生募集停止のため、3 ～ 4 年のみ在籍。
 スポーツ健康学科は 3 ～ 4 年次開講科目のみでは、基準単位数に満たないため、従前の教育課程に基づき、記載を追加。
 文学部教育学科は令和 4 年 4 月から学生募集停止のため、2 ～ 4 年のみ在籍。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「情報公開」
 「大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る事項」
https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/list_of_lesson_subjects_pec_2022_university.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ「情報公開」 「大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る事項」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/list_of_directors_20220401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社代表取締役	2021.1.19～ 2023.1.18	総括
非常勤	会社相談役	2021.1.19～ 2023.1.18	企業人としての意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学位授与の方針と整合した到達目標、明確な成績評価基準など学生等に対して示すため、シラバス作成要領を作成し、これに基づいてシラバスを作成している。 さらに、作成したシラバスは、記載内容が訂正であるかを学部長等による第三者チェックを行い、基準に合わない内容に対しては訂正・修正を行っている。 シラバスは本学HPに掲載し、学生ほか一般者への公開を行っている。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページ https://cmweb.kanazawa-gu.ac.jp/campusweb/slbsskgr.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位取得は、試験、レポート、作品提出、授業貢献度等を総合して評価している。 成績評価はあらかじめ設定した基準により、厳正かつ適正に実施しており、この基準は、学生配付の学生便覧に掲載して公開している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学ではGPA制度を導入しており、この値はポータルサイトで自らの学修成果の推移を確認することができる。

判断基準及び算出方法については、学生便覧に以下の通り、掲載している。

<学生便覧 (pp. 25～26) より抜粋>

(8) . GPA について

本学では、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPA は学内ポータルサイト (Campusmate) で確認できる。

①GPA の意味と活用

・GPA の値とは、各自の成績を数値化したものである。学期や学年毎のGPA や入学からの通算のGPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。

I . 本学が学生の学修状況を測定・把握し、学修到達度を検証するために活用する。

II . 進級判定・卒業判定に活用する。ともに基準は原則1.0以上とする。

III . 各種奨学金の受給審査や学業成績に関する学長褒章の候補決定のために活用する。

②GPA 対象科目

GPA の対象となる科目は、各学部が規定する卒業要件に係わる授業科目とする。(不合格科目も含む。)ただし、履修取消期間内に科目登録を取り消した科目は GPA の対象とならない。また、他大学等で修得した単位で、本学の単位として認定された授業科目は、GPA の対象とはしない。

③判定基準

GPA は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりの GP 平均値 (Average) である。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	秀	100 ～ 90	4	特に優れた成績
	優	89 ～ 80	3	優れた成績
	良	79 ～ 70	2	良好な成績
	可	69 ～ 60	1	合格と認められる成績
不合格	不可	59 以下	0	不合格
	放棄	—	0	放棄
認定	認定	—	—	他大学等で修得した科目を認定した場合

④ GPA の計算式

$$GPA = (\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) \div \text{総履修登録単位数}$$

GPA の値には、不可、放棄の評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	学生便覧に掲載 なお、学生便覧は本学ホームページ「情報公開」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/handbook_2022_university_graduateschool.pdf に掲載するとともに、本学教務部にて閲覧できる。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件は学則に定められており、これに基づいた各学部学科における詳細内容は学生便覧に掲載されている。 卒業生については、各学部学科での教授会での審議を経て決定する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生便覧に掲載 なお、学生便覧は本学ホームページ「情報公開」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/handbook_2022_university_graduateschool.pdf に掲載するとともに、本学教務部にて閲覧できる。

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/taisyakutaisyohyo_2021.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/syushikeisansyo_2021.pdf
財産目録	https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/zaisanmokuroku_2021.pdf
事業報告書	https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/jigyohokokusyo_2021.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/kanjikansahokokusyo_2021.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書 対象年度: R3)
公表方法: 財務部に備え付け
中長期計画(名称: 中期計画 対象年度:)
公表方法: 財務部に備え付け

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ「情報公開」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/R3_jikotennkennhyoukasyo_09kanazawa_gakuin_university.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/R3_daigakukikannbetsuinnsyohyokahoukokusyo_09kanazawa_gakuin_university.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 言語や文化についての広汎な知識と、人間及び人間社会に対する深い洞察力を涵養して、自他の文化を担う人間同士の円滑なコミュニケーションに資することのできる創造性豊かな人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ○文学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（文学）」の学位を授与します。 1. 主体的に課題を発見し、考え、解を見出す力を身につけている。 2. 他者とのインタラクション（相互作用）を通して、見出した解をさらに発展させることができる力を身につけている。 3. 文学、言語、心理、歴史などを通して、人間や社会に対する深い洞察力を身につけている。 4. 地域社会において、その文化的発展に資する積極的な姿勢を身につけている。 ○教育学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（教育学）」の学位を授与します。 1. グローバルな視点で発想し、地域社会の教育と文化の発展に貢献できる。 2. 教育に関する諸課題を主体的に発見・分析・理解し、幅広い専門的知見をもとにその対応策について協働的に考え、行動できる。 3. 豊かな人間性や感性を備えた高度専門的職業人としての使命と責任を自覚し、継続的な自己研鑽への意志をもって教育活動に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ○文学科 文学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 大学教育の基礎となるスキルを身につける初年次教育 2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育 3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育 4. 自分の適性を見きわめ、人生を設計する力を身につけるキャリア教育 5. 他専攻の専門科目の受講を必須とする、人文科学・社会科学を横断的に学ぶ履修制度 6. 地域社会を学びの場とした教育 7. 自ら選択した学問分野の知識を深める専門教育 8. 主体的学修の集大成としての卒業研究 ○教育学科 教育学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 学習指導論、教職論、保育原理などに関する教育学分野を中心に、教育活動全般で活用する基礎的な知識・技能の修得から専門的な知識・技能の修得に関する教育課程を体系的に編成する。

2. 豊かな人間性を備えた高度専門的職業人の育成のために、グローバル人材の育成、英語活動と英語教育、ICT活用、地域協働と組織マネジメント、インクルーシブ教育等の科目を体系的に編成している。 3. 保育、幼児教育、小学校教育、中学校英語教育に関してそれぞれ実習科目を設定し、理論と実践の往還を踏まえた学修の集大成としての卒業研究に臨めるように教育課程を編成している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」 ）
（概要） ○文学科 1. 文学、言語、歴史、心理、また、文化や社会、人間などに対し幅広い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生 2. 自ら問い、自ら考え、自ら学び、主体的に社会で活躍する意欲を持つ学生 3. 大学で学修するために必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生 ○教育学科 1. グローバル社会、多文化共生社会への幅広い関心を持ち、そうした時代に対応した人間形成のための理論・実践研究を深めようとする学生 2. 教育への幅広い関心を持ち、教育実践者として、確かな知識と理論をもって教育の現代的課題の解決に向け意欲的に取り組もうとする学生 3. 大学で学修するための必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、高度な教育実践者となるための意欲をもち他者と協力していくことができる学生

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」 ）
（概要） 本学部では、次のような人材を養成する。 ・ 広い教養に支えられた高度な教育実践力をもつ教師・保育者の養成 ・ 知的世界に冒険者・先駆者として子どもを導くことのできる教師・保育者の養成 ・ 企画者・構想者・学習者・共創者・先導者・支援者・援助者として学校教育をリードできる教師・保育者の養成 ・ 自他の精神的自由を大切にし、自己変革・自己成長への勇気をもつ教師・保育者の養成 これらの養成する人材像に基づき、以下の能力習得を目的とする： ・ 多様な人々と異見や対立を乗り越え、課題に立ち向かい、新たな解や智を共創できるための基本的技能としての共創型対話力の修得 ・ 地球社会の一員としての当事者意識・多文化共生のマインドをもち、今ある現実の課題の解決のみでなく、未来を見据える思想の涵養 ・ 多様な知識・能力・理解・技能・経験などを統合・総合し、新たな解や知恵を生起させる共創力の習得
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」 ）
（概要） 1. グローバルな視点で発想し、地域社会の教育と文化の発展に貢献できる。 2. 教育に関する諸課題を主体的に発見・分析・理解し、幅広い専門的知見をもとにその対応策について協働的に考え、行動できる。 3. 豊かな人間性や感性を備えた高度専門的職業人としての使命と責任を自覚し、継続的な自己研鑽への意志をもって教育活動に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 本学ホームページ「情報公開」 ）

(概要) 1. 学習指導論、教職論、保育原理などに関する教育学分野を中心に、教育活動全般で活用する基礎的な知識・技能の修得から専門的な知識・技能の修得に関する教育課程を体系的に編成する。 2. 豊かな人間性を備えた高度専門的職業人の育成のために、グローバル人材の育成、英語活動と英語教育、ICT活用、地域協働と組織マネジメント、インクルーシブ教育等の科目を体系的に編成している。 3. 保育、幼児教育、小学校教育、中学校英語教育に関してそれぞれ実習科目を設定し、理論と実践の往還を踏まえた学修の集大成としての卒業研究に臨めるように教育課程を編成している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
(概要) 1. グローバル社会、多文化共生社会への幅広い関心を持ち、そうした時代に対応した人間形成のための理論・実践研究を深めようとする学生 2. 教育への幅広い関心を持ち、教育実践者として、確かな知識と理論をもって教育の現代的課題の解決に向け意欲的に取り組もうとする学生 3. 大学で学修するための必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、高度な教育実践者となるための意欲をもち他社と協力していくことができる学生

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
(概要) 経済学を基礎とした論理的思考力を持ち、北陸地域の産業の知識集約化や高付加価値化に貢献できる人材、新しい地域社会をデザインできる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
(概要) ○経済学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経済学）」の学位を授与します。 1. 経済学に関する基礎的な知識を身につけている。 2. 経済学、経営学を有機的に結び付けて理解し、問題の発見と解決に関心をもって適切に対応できる。 3. グローバル及びローカルな視点に立って地域経済の問題について分析し、理解することができる。 ○経営学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経営学）」の学位を授与します。 1. 経営学に関する基礎的な知識を身につけている。 2. 経営学、経済学を有機的に結び付けて理解し、問題の発見と解決に関心をもって適切に対応できる。 3. グローバル及びローカルな視点に立って企業経営の問題について分析し、理解することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ○経済学科 経済学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 経済に関する基礎的な知識を修得し、経済の仕組みや動きを理解できる能力を身につける。 2. 地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた課題、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた課題などを把握できる能力を身に付ける。 3. 地域経済の課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役や地域ビジネスの中核となって行動する能力を身につける。 ○経営学科 経営学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 組織運営や組織活動の評価に関する基礎的な知識を修得し、企業の仕組みや活動状況について理解できる能力を身につける。 2. 企業活動の現状を経理・会計情報を基に分析し、客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明できる能力、企業の意思決定材料としての確に情報提供できる能力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ○経済学科 1. 経済の仕組みや動きを理解、分析できる能力を身につけ、地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた諸課題を発見、その解決方を提案し、地域づくりの先導役なろうと考えている学生 2. 地域経済の動向と企業経営との関係を理解し、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた諸課題を発見、その解決方を提案し、地域ビジネスの中核になろうと考えている学生 3. 創造性豊かで地域社会に貢献する意欲を持つ学生 ○経営学科 1. 企業経営の現状を経理・会計情報を基に分析し、意思決定材料としての確に提供するとともに、客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明することにより、適切な組織マネジメントをしたいと考えている学生 2. 的確なデータ分析を通じて、地域社会のニーズに応えた、価値のある製品サービスを創造し、データ分析の結果をマーケティング、マネジメント、経営戦略等の強化に活用したいと考えている人材 3. 創造性豊かで地域社会に貢献する意欲を持つ学生

学部等名 経済情報学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 経済に関する知識をもとに、地域社会が持つ課題に対応できる、実践的なスキルを身につけた人材の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（情報学）」の学位を授与します。 1. 経済学、経営学及び情報学に関する基礎的な知識を身につけている。 2. 経済学、経営学及び情報学を有機的に結びつけて理解し、課題の発見と解決に関心をもって適切な対応できる。 3. グローバル及びローカルな視点に立って企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 経済情報学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 経済に関する基礎的な知識を修得し、経済の仕組みや動きを理解できる能力を身につける。 2. データ分析に関する情報学的な知識を修得し、経済の理解に基づく情報処理能力を身につける。 3. 地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた課題、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた課題などを、情報分析能力をもって把握できる能力を身につける。 4. 地域経済の課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役や地域ビジネスの中核となって行動する能力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 1. 経済学及び経営学の学びを基礎とし、地域社会における課題に対し、社会環境の理解と各種データの活用により、地域の産業の進展に貢献し地域社会を豊かなものにしようと考えている学生 2. 各種データを分析するための ICT 活用能力を有し、それをツールとして用いて組織の業務プロセスを革新するためのプロジェクトマネジメント能力を修得することにより、地域の幅広い組織・企業において活躍したいと考えている学生 3. 創造性豊かで、地域社会に貢献する意欲を持つ学生

学部等名 経営情報学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 経営や経済の仕組み、ビジネスの動向、情報の収集や活用方法を学ぶことによって、現代社会、とりわけ地域社会的な確かな分析を行うとともに、課題に対応していく実践的な知識を身につけた創造性豊かな人材の育成を目指し、その活躍の場を企業活動にとどまらず、広く自治体や各種団体等に想定する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経営学）」の学位を授与します。 1. 企業経営や経済の仕組み、情報システムに関する基礎を理解している。 2. グローバルな視点から、あるいはローカルな視点から企業経営や経済について理解している。 3. これらに基づいて、自ら問題の発見とその解決について対応できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 経営情報学部では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 大学教育を受けるための基礎学力とスキルを身につける初年次教育 2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育 3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育 4. 自分の将来を見すえ、自己の人生を考える力を身につけるキャリア教育 5. 地域の社会・経済と結びついた教育 6. 経営、経済、経営情報の基礎力を身につける教育 7. 身につけた専門知識を活かして地域の課題について考える教育 8. 主体的学修の集大成としての卒業研究
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 1. 経営学、経済学、経営情報学を融合的に学びたい学生、あるいはこれらのいずれかの学問をさらに深めたいと考えている学生 2. 社会に存在する課題を発見し、その解決に積極的に取り組む意志を持つ学生 3. 大学で学修するために必要な国語や数学の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生

学部等名 芸術学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 表現領域についての広汎な技術及び知識と、社会に対する深い洞察力を養成し、円滑な意思疎通や自己表現に資することのできる創造性豊かな人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（芸術学）（Bachelor of Art and Design）」の学位を授与します。 1. 表現領域についての広汎な技術および知識と、社会に対する深い洞察力を有し、円滑な意思疎通や自己表現ができる。 2. 創造的かつ論理的な思考力を持ち、社会における自己の役割を認識し、自ら考え、自ら行動できる。 3. 芸術の専門的な知識・表現技術のみならず、創造性・観察力、課題発見・解決能力を、現代社会の多様な分野で活かすことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 1. 創造の基盤となる「芸術表現基礎」を配した初年次教育 2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育 3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育 4. 柔軟な発想と理解力を身につけるための横断的かつ多様な学びができる履修制度 5. 協働で問題解決を図るためのコミュニケーション能力を身につける教育 6. アクティブラーニングや地域連携等の活動を通して主体的に学ぶ実践教育 7. 芸術全般に関する知識や技能の修得を通して、地域社会との繋がりを理解する教育 8. 自らが選択した表現領域における専門教育 9. 主体的学修の集大成としての卒業研究・卒業制作

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 1. 絵画、造形、デザイン、映像、メディアに対する強い興味、また、社会や人、芸術全般に対する関心を自らの人生目標に反映させようとする学生 2. ものごとへの誠実な取り組み姿勢と五感を働かせて学びとる成果を、主体的に社会に還元していこうとする学生 3. 大学で学修するために必要な国語力、現代人としての教養を身につけ、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生
--

学部等名 スポーツ科学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指し、それに必要な能力を習得させる。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 1. スポーツ科学についての必要な知識と実践力を身につけている。 2. スポーツに関連する社会および個人の問題点をみつけだし、その解決策を提供できる。 3. アスリートはもとより、子供から高齢者までを対象に、スポーツプログラムを作成し、スポーツの科学的指導ができる。 4. グローバルな視点にたって、スポーツに関連する問題を考え、提言できる。 5. スポーツ科学の知識と実践力を、地域社会に役立てる。
--

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 1. 初年次教育を通じて、大学教育の基礎となるスキルを身につける。 2. キャリア教育を通じて、自分と社会の状況を見極め分析し、社会で活躍できる力を身につける。 3. 専門教育を通じて、スポーツ科学を総合的・体系的に学ぶ。 4. 地域のスポーツと健康の問題に関心を持ち、課題解決能力を養う。 5. 卒業研究を通じて、主体的学修の集大成を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」） （概要） 1. スポーツ科学に対し強い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生。 2. 身につけた運動技能に関する知識をさらに高めて、スポーツ科学の発展に貢献する情熱と意欲を持つ学生。 3. 高等学校段階までの保健体育で学習する内容を理解し、さらに大学で学修するために必要な基礎学力を備え、自らの考えを自らの言葉で発信できる学生。

学部等名 栄養学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 人々が健やかに豊かに暮らすことのできる社会を構築する人材を養成することを究極の目的とし、地域社会の中で人々と健康・医療・福祉・介護に関する多様な問題を協働して解決する変革力のある人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 次に掲げる能力を有する学生に「学士（栄養学）」の学位を授与する。 1. 学則に定める所定の期間在学し、学科の教育理念及び教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、卒業要件を満たす所定の単位数を修得していること。 2. 食と「栄養」を通じて人類の福祉に貢献しようとする意志を有し、それを実現する幅広い教養と専門的知識と技能とともに修得していること。 3. 社会生活に必要な基礎的教養とコミュニケーション能力を有し、社会の変化に対応できる総合的判断力を有すること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 1. 幅広い教養を身につけ、コミュニケーション能力、判断力、社会貢献に対する意識を養うために、教養科目を配置する。 2. 各学科の提供する専門科目を通じた専門的知識の修得と論理的思考を行う力を身につける。 3. 豊かな人間性により他者の心情を共感、理解し、自ら情報を発信し円滑なコミュニケーションを通じて指導できる力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 多くの課題を抱える現代社会においては、高度の課題解決能力が求められる。基礎学力を有し、勉学意欲が旺盛で、食や栄養を通して人間の健康と幸福に関心をもつ人を受け入れる。

学部等名 人間健康学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ○スポーツ健康学科 人間健康学部スポーツ健康学科は、体力等の向上を図る地域のスポーツ愛好者から競技力の向上を図るアスリートにいたるまでの最先端のトレーニング論と、現代社会に求められる健康づくりや身体づくりのための健康科学を、理論と実際の面から学び、スポーツ及び健康にかかわって深く貢献できる次代を担う人材を育成する。 本学科の教育研究は、専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指す。 ○健康栄養学科 人間健康学部健康栄養学科は、建学の精神および教育理念に基づき、健康づくりを最新の栄養学の観点から学び、専門的かつ高度な視点から地域の健康と栄養に関わる課題を捉え、

生涯に亘る健康の維持・増進に貢献できる管理栄養士の育成を目指す。より具体的には、地域のニーズに応える管理栄養士の養成を図り、医療、福祉、学校における食育など様々な場面で高度な栄養ケアマネジメントおよび栄養教育の中核となって地域の健康増進に資する管理栄養士を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、スポーツ健康学科では「学士（スポーツ健康学）」、健康栄養学科では「学士（栄養学）」の学位をそれぞれ授与します。 ○スポーツ健康学科 1. スポーツ、健康についての必要な知識と能力を身につけている。 2. スポーツ科学、健康科学に関する基礎的知識を身につけ、各人に対する問題点をみつけだし、適切なプログラムを提供できる。 3. グローバルな視点に立って、スポーツや健康の問題を考え、提言できる。 4. アスリートのためだけでなく、子供から高齢者まで、楽しく正確にスポーツや運動を指導できる。 5. スポーツ科学や健康科学を通じて地域社会に貢献できる。 ○健康栄養学科 1. 広い視野を有し、深い教養と豊かな人間性を身につけている。 2. 医療、福祉、介護などの現場で適切な栄養ケアマネジメントを行う力を身につけている。 3. 栄養教育活動に積極的に参加し、生活習慣病予防に貢献する意欲をもっている。 4. 地域との連携を重視し、地域の食文化の継承に積極的に関わることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） 人間健康学部では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 大学教育の基礎となるスキルを身につける初年次教育 2. 状況を見極め分析し、自己発信する力を身につけるキャリア教育 3. スポーツ健康学と健康栄養学を総合的・体系的に学ぶ専門教育 4. 地域の健康問題に関心を持ち、課題解決能力を養う教育 5. 主体的学修の集大成としての卒業研究
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）
（概要） ○スポーツ健康学科 1. 体育・スポーツ・健康の領域に対し強い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生 2. 身につけた運動技能に関する知識をさらに高めて、体育・スポーツの発展に貢献する情熱と意欲を持つ学生 3. 高等学校段階までの保健体育で学習する内容を理解し、さらに大学で学修するために必要な国語力を備え、自らの考えを自らの言葉で発信できる学生 ○健康栄養学科 1. 健康や栄養に関心を持ち、食と栄養に関する専門職として管理栄養士になることを目標に、その専門的かつ高度な知識・技術を真摯に学ぼうとする意欲のある学生 2. 修得した専門的かつ高度な知識・技術を人々の健康のために役立て、地域社会の福祉や発展に貢献したいという意欲のある学生 3. 管理栄養士養成課程で学修するために必要な日本語、英語及び化学・生物における十分な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ「情報公開」
<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/academics/#academics-struct>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)	
--------------	--

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
文学部		8人	5人	10人	0人	0人	23人
教育学部		6人	5人	5人	2人	0人	18人
経済学部		10人	2人	5人	0人	0人	17人
経済情報学部		6人	3人	2人	1人	0人	12人
芸術学部		8人	5人	3人	0人	0人	16人
スポーツ科学部		7人	3人	2人	4人	3人	19人
栄養学部		8人	2人	1人	0人	4人	15人
基礎教育機構		2人	2人	2人	0人	0人	6人

b. 教員数（兼務者）	
-------------	--

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	54 人	54 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/teacher/
------------------------------	--

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学では、FD活動は、学長指揮のもとで大学改革を推進するための学内組織「教育開発センター」が取り組むプロジェクトの1つに位置付けられており、これらを推進する組織として副学長を委員長とする大学FD委員会を全学的な委員会として設置し、活動を行っている。また、SD活動についても、大学FD委員会が中心となり、FD活動との連携を重視しながら計画的に実施している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	180 人	196 人	108.9%	926 人	1012 人	105.9%	8 人	1 人
教育学部	70 人	72 人	102.9%	70 人	72 人	102.9%	0 人	0 人
経済学部	180 人	206 人	114.4%	470 人	518 人	110.2%	10 人	2 人
経済情報学部	70 人	74 人	105.7%	210 人	229 人	109.0%	0 人	0 人
経営情報学部	0 人	0 人	0%	190 人	211 人	111.1%	0 人	0 人
芸術学部	70 人	73 人	104.3%	284 人	322 人	113.4%	2 人	2 人
スポーツ科学部	150 人	173 人	115.3%	300 人	341 人	113.7%	0 人	0 人
栄養学部	80 人	88 人	110%	160 人	167 人	104.4%	0 人	0 人
人間健康学部	0 人	0 人	0%	430 人	483 人	112.3%	15 人	11 人
合計	800 人	882 人	110.3%	3040 人	3355 人	109.3%	35 人	16 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	201 人 (100%)	9 人 (4.5%)	168 人 (83.6%)	24 人 (11.9%)
経営情報学部	176 人 (100%)	1 人 (0.6%)	168 人 (95.5%)	7 人 (4.0%)
芸術学部	67 人 (100%)	0 人 (0%)	61 人 (91.0%)	6 人 (9.0%)
人間健康学部	206 人 (100%)	1 人 (0.5%)	201 人 (97.6%)	4 人 (1.9%)
合計	650 人 (100%)	11 人 (1.7%)	598 人 (92%)	41 人 (6.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
全学科の教育課程表は、本学ホームページ「情報公開」で公開している。また、シラバスについてもすべての授業について Web 化しており、本学ホームページのトップページ及び「情報公開」いずれからでもアクセスできるようになっている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
入学生に配付している学生便覧に「金沢学院大学学修の手引き」を記載し、科目の履修および単位の修得、卒業要件単位等について明記している。あわせて履修の登録や取消の方法、試験と単位の認定、GPAの算出方法についても明記し、周知している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	文学科	128 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	128 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	単位
	経営学科	128 単位	有・無	単位
経済情報学部	経済情報学科	128 単位	有・無	単位
芸術学部	芸術学科	128 単位	有・無	単位
スポーツ科学部	スポーツ科学科	128 単位	有・無	単位
栄養学部	栄養学科	128 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ「情報公開」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	文学科日本文学専攻 文学科英米文学専攻 文学科心理学専攻	730,000 円	200,000 円	290,000 円	1 年次のみ、その他 280,000 円
	文学科歴史学専攻	730,000 円	200,000 円	310,000 円	
	教育学科	750,000 円	200,000 円	370,000 円	
教育学部	教育学科	750,000 円	200,000 円	370,000 円	
経済学部	経済学科	730,000 円	200,000 円	330,000 円	1 年次のみ、その他 270,000 円
	経営学科				
経済情報学部	経済情報学科	730,000 円	200,000 円	390,000 円	1 年次のみ、その他 330,000 円
経営情報学部	経営情報学科	730,000 円	200,000 円	330,000 円	1 年次のみ、その他 270,000 円
芸術学部	芸術学科	850,000 円	200,000 円	430,000 円	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	770,000 円	200,000 円	340,000 円	
栄養学部	栄養学科	850,000 円	200,000 円	430,000 円	
人間健康学部	スポーツ健康学科	770,000 円	200,000 円	340,000 円	
	健康栄養学科	850,000 円	200,000 円	430,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生に配付する学生便覧に「金沢学院大学学生規則」を掲載し、学生の修学に係る支援について明記している。また、本学独自の奨学金制度をはじめ、各種奨学金については、本学ホームページやキャンパスガイド等に記載し、周知している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職支援部では、学生一人ひとりの希望に応じた職種・業種の紹介や就職相談をはじめ、個別の模擬面接、試験対策「KGC 講座(金沢学院キャリア講座)」、企業採用担当者を招いての「学内企業説明会」など、さまざまな取り組みを実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学内に「保健室」と「なんでも相談室」を設置している。 保健室は、学生自身が健康への関心と理解を深め、充実した学生生活を送っていくことができるようサポートしており、「なんでも相談室」は、心身の健康、人間関係、修学・履修、進路・就職、その他どんな学生生活上の問題についても相談に応じ、学生自身が、不安なく充実した学生生活を送っていくことができるようサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「情報公開」 https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F117310105497
学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		277人	266人	289人
内 訳	第Ⅰ区分	139人	147人	
	第Ⅱ区分	81人	69人	
	第Ⅲ区分	57人	50人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				291人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。